Asia Indicators

発表日:2025 年6月 20 日(金)

インドは輸出入双方で底入れの動きが一服(Asia Weekly(6/16～6/20))

～マレーシア輸出は対米輸出に駆け込みの反動、対中輸出も頭打ちの動きが続く～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 西濵 徹(TEL:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

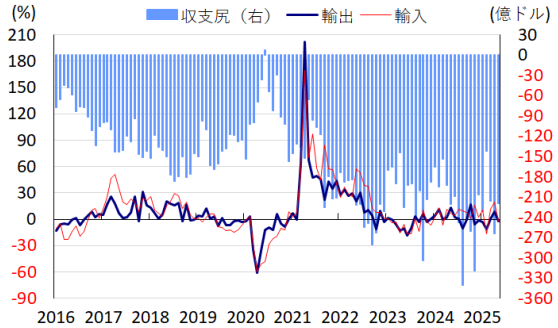
発表日	指標、イベントなど	結果	ｺﾝｾﾝｻｽ	前回
6/16(月)	(中国)5 月鉱工業生産(前年比)	＋5.8%	＋5.9%	＋6.1%
	5 月小売売上高(前年比)	＋6.4%	＋5.0%	＋5.1%
	5 月固定資産投資(年初来前年比)	＋3.7%	＋3.9%	＋4.0%
	(インド)5 月輸出(前年比)	**▲2.2%**	**－－**	**＋9.0%**
	5 月輸入(前年比)	**▲1.7%**	**－－**	**＋19.1%**
6/17(火)	**(シンガポール)5 月非石油輸出(前年比)**	**▲3.5%**	**＋8.0%**	**＋12.4%**
	(香港)5 月失業率(季調済)	**3.5%**	**－－**	**3.4%**
6/18(水)	(インドネシア)金融政策委員会(政策金利)	5.50%	5.50%	5.50%
6/19(木)	(ニュージーランド)1-3 月実質 GDP(前年比)	▲0.7%	▲0.8%	▲1.3%
	(フィリピン)金融政策委員会(政策金利)	5.25%	5.25%	5.50%
	(台湾)金融政策委員会(政策金利)	2.000%	2.000%	2.000%
6/20(金)	**(マレーシア)5 月輸出(前年比)**	**▲1.1%**	**＋7.5%**	**＋16.4%**
	5 月輸入(前年比)	**＋6.6%**	**＋9.0%**	**＋20.0%**

(注) ｺﾝｾﾝｻｽは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。**灰色で囲んでいる指標**は本レポートで解説を行っています。

[インド]～輸出入双方で底入れの動きに一服感、商品市況の調整が輸入を下押しして貿易赤字幅は縮小～

16 日に発表された５月の輸出額は前年同月比▲2.2%となり、前月（同＋9.0%）から３ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は３ヶ月ぶりの減少に転じるなど、底入れの動きに一服感が出ている様子がうかがえる。財別では、電気機械関連や化学製品関連の輸出に底堅い動きがみられるものの、工学機械関連や石油製品関連のほか、宝飾品関連などの輸出に下押し圧力が掛かり、輸出全体の重石となっている。国・地域別でも、米国向けは堅調な動きをみせるとともに、中国向けも底堅い動きをみせる一方、アジア新興国向けや欧州向け、中東向けに軒並み下押し圧力が掛かるなど、世界経済を巡る不透明感の高まりが影響している可能性がある。一方の輸入額も前年同月比▲1.7%となり、前月（同＋19.1%）から３ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も３ヶ月ぶりの減少に転じるなど、底入れの動きに一服感が出ている。財別では、機械製品関連の輸入は堅調な推移をみせているものの、原油関連や鉱物資源関連のほか、金の輸入額に下押し圧力が掛かり輸入全体の重石となっている。結果、貿易収支は▲218.80 億ドルと前月（▲264.20 億ドル）から赤字幅が縮小している。

図１ IN 貿易動向の推移

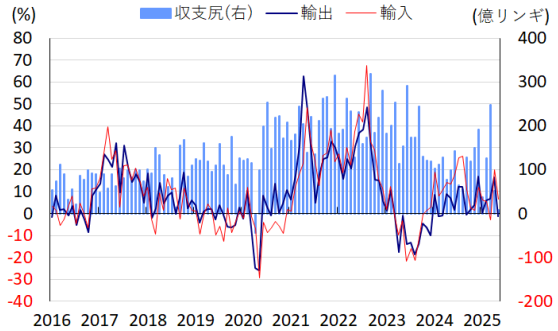


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～米国向けに駆け込みの反動、中国向けの頭打ちも重なり、輸出は8ヶ月ぶりに前年を下回る～

20 日に発表された５月の輸出額は前年同月比▲1.1%となり、前月（同＋16.4%）から８ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比は▲4.8%と前月（同＋5.3%）から２ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。国・地域別では、ＡＳＥＡＮ諸国など周辺国向け輸出に堅調な動きがみられるものの、最大の輸出相手である中国向けが下振れするとともに、トランプ関税の発動を前に上振れした米国向けに反動が出る動きが確認されるなど、幅広い国・地域向けの輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比＋6.6%となり、前月（同＋20.0%）から伸びが鈍化している。前月比も▲3.6%と前月（同＋19.8%）から２ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向を維持するなど底堅さがうかがえる。輸出の先行きに不透明感が高まっているものの、中間財関連の輸入に底堅い動きがみられるほか、資本財関連の輸入の堅調さが輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は＋7.66 億リンギと前月（＋51.30 億リンギ）から黒字幅が縮小している。

図２ MY 貿易動向の推移



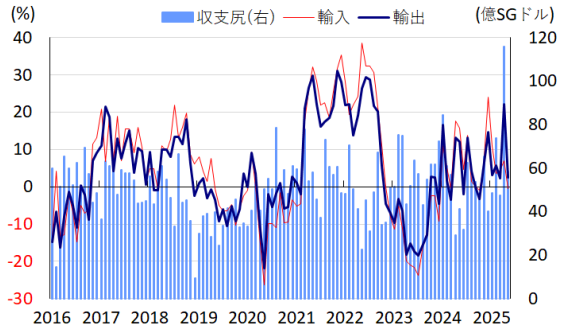
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～輸出入ともに一進一退の動きをみせており、輸出を巡る不透明感の高まりが輸入の重石に～

17 日に発表された５月の非石油輸出額は前年同月比▲3.5%となり、前月（同＋12.4%）から４ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲12.04%と前月（同＋10.45%）から２ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、化学製品関連の輸出に底堅い動きがみられるものの、主力の輸出財である機械製品関連で幅広く下押し圧力が掛かる動きがみられる。原油関連を合わせた総輸出額も前年同月比＋

2.5%となり、前月（同＋22.1%）から伸びが大きく鈍化している。前月比も▲15.6%と前月（同＋22.6%）から２ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせており、頭打ちの動きを強めている。トランプ関税を巡る不透明感の高まりを受けて、前月までの駆け込みの動きの反動が出ていることも影響している。一方の輸入額は前年同月比▲0.5%となり、前月（同＋6.9%）から７ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲7.1%と前月（同＋7.8%）から２ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。輸出を巡る不透明感の高まりを受けて幅広い財で輸入に下押し圧力が掛かるとともに、商品市況の調整の動きも輸入額の重石となっている。結果、貿易収支は＋58.48 億ＳＧドルと前月（＋115.88 億ＳＧドル）から黒字幅が縮小している。

図３ SG 貿易動向の推移

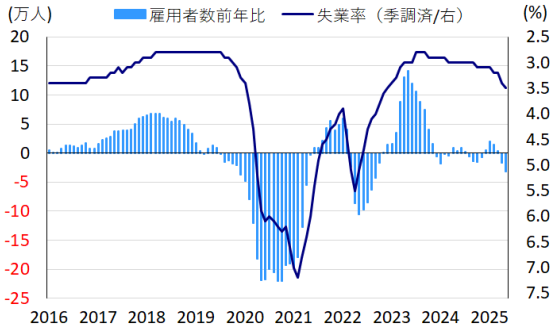


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～中国本土経済を巡る不透明感の高まりを受け、幅広く雇用を取り巻く環境悪化の動きが確認される～

17 日に発表された５月の失業率（季調済）は 3.5%となり、前月（3.4%）から 0.1pt 悪化して 2022 年 12 月以来の水準となった。失業者数は前年同月比＋2.0 万人と前月（同＋1.6 万人）から拡大ペースが加速しているほか、不完全雇用者数も同＋0.9 万人と前月（同＋0.7 万人）から拡大ペースが加速するなど、雇用を巡るミスマッチが拡大している様子がうかがえる。一方の雇用者数は前年同月比▲3.2 万人と前月（同▲1.7 万人）から２ヶ月連続で前年を下回るとともに、減少ペースも加速しており、雇用を取り巻く環境が厳しさを増している様子もうかがえる。分野別では、小売関連や物流関連、観光関連など幅広くサービス業で雇用調整圧力が強まる動きがみられるとともに、建設業においても雇用調整の動きが強まるなど、中国本土における不動産不況の余波が避けられない状況にあると捉えられる。また、製造業の雇用も伸び悩む展開が続いており、中国本土経済を巡る不透明感が雇用の重石になっている。事実、労働力人口も前年同月比▲1.3 万人と前月（同▲0.1 万人）から２ヶ月連続で前年を下回り、そのペースも加速するなど労働市場への参入意欲が後退する動きもみられる。

図 4　HK　雇用環境の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

以　上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。